

1. 早稲田大学に 対する 期待と満足



早稲田大学を 選んだ理由

ワセダのブランドって「バンカラな校風、優れた教育が受けられ、いい仲間がたくさん巡り合えて、そして世間的にも高く認められている大学」ってことだね。

学部・研究科、 専攻分野を選んだ理由

みんな「自分の志望した専攻分野」で「将来に必要な知識を身につけたい」と思って選んだんだ。「浪人がイヤ」とか「ワセダならどこでもよかった」って心底思ってるヤツなんかほとんどいないよ。

学部・研究科、 専攻分野に対する満足度

8割以上は自分の学部や学科に「満足」しているよ。でも「なんとなく」と思って入った人たちには不満が多いよ。入った時のモチベーションってすごく大事。

入学前後の大学に 対するイメージギャップ

「想像していたイメージと違う」って感じる人多いね（約6割）。特に「伝統・校風・雰囲気」がそう。「自由過ぎる」、「思ったほど自由でない」と、ギャップはバラバラ。

ワセダの学生で あることへの満足

男女問わず9割以上が早稲田大学のことが好きで、早大生であることに誇りを持っている人も8割以上！好きな理由は何たって「伝統、校風、雰囲気」だね。

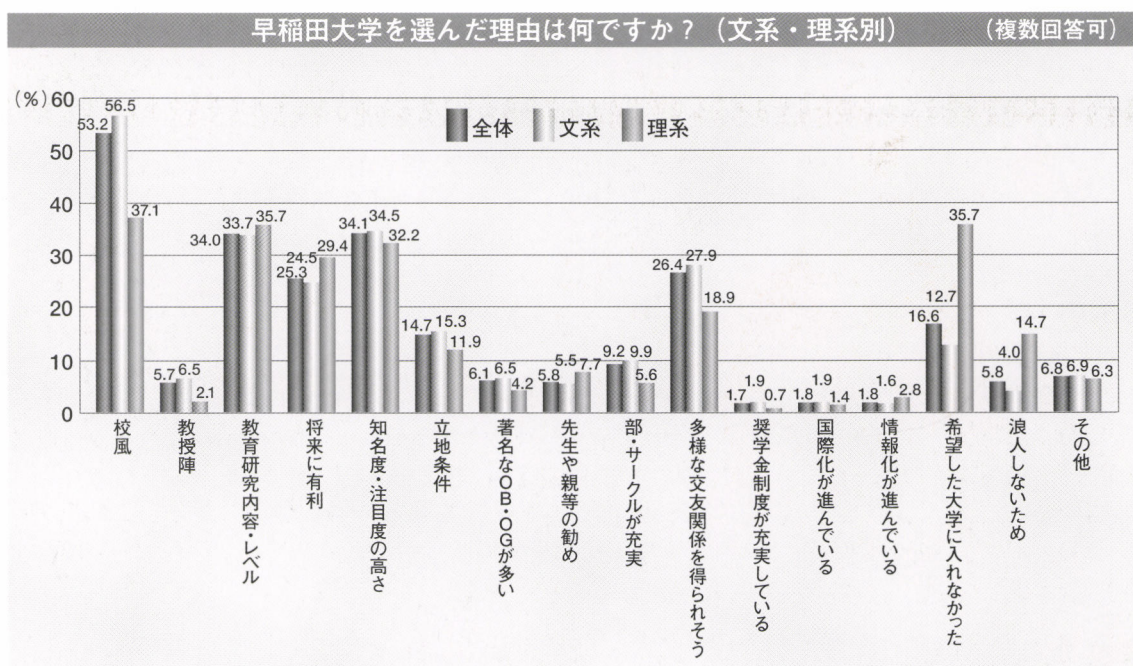


(1) 早稲田大学を選んだ理由

学生が早稲田大学に入学する際に、何を評価して選択しているのでしょうか。そこで「早稲田大学を選んだ理由」を見てみると、「校風」(53.2%)、「知名度・注目度の高さ」(34.1%)、「教育・研究内容のレベル」(34.0%)、「多様な交友関係を得られそう」(26.4%)、「将来に有利」(25.3%)というものが多く、逆に「教授陣」(5.7%)、「先生や親等の勧め」(5.8%)、「著名なOB等が多い」(6.1%)、「部・サークルが充実」(9.2%)などは少ない回答となっています。これは受験生が認知している早稲田大学のブランドというものが、「バンカラな校風で、優れた教育が受けられ、良き友人と出会い、そして社会的にも高く認められている大学である」ということを意味するものでしょう。

しかし一方で、教育研究に直接携わる教授陣、卒業後の自分のモデル像ともいえるOB・OG等に注目していないのは、そのブランドの中身が多分にイメージ的なものであって、具体性を帯びていないことを物語るものでしょう。また選択にあたって、先生や親の勧めではなく、自らが選択している傾向が強いことも早大生の特徴と言えるかもしれません。

文系と理系とで特徴の違いを眺めて見ると、理系よりも文系の方が、「校風」と「多様な交友関係」を選択理由として考えている割合が高くなっています。

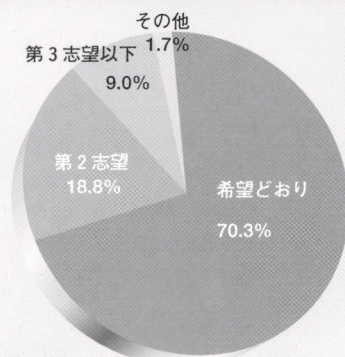


(2) 学部・研究科、専攻分野を選んだ理由

専攻分野としての学部や学科を選択するに際して、学生はどのように考えて行動したのでしょうか。まず、志望した学部・研究科に入学できたかどうかについては、「希望どおり」(70.3%)、「第2希望」(18.8%)となっており、「第3希望以下」は(9.0%)と少数になっています。

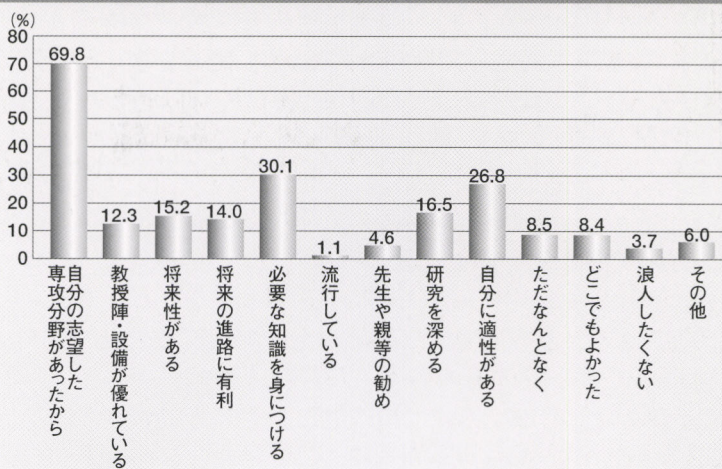
専攻分野を選んだ理由ですが、「自分の志望分野」(69.8%)と飛び抜けて多く、「将来に必要な知識」(30.1%)、「自分の適性」(26.8%)が続きます。多くの学生が、進学した学部等と自分のやりたいことが

自分が志望した学部・研究科に入学できましたか？



マッチしていると判断して入学してきたと考えられます。したがって幸いなことに「早稲田ならどこでもよかった」(8.4%)、「浪人したくなかった」(3.7%)という消極的な理由は少なくなっています。

入学した学部・研究科、専攻分野を選んだ理由は何ですか？（複数回答可）

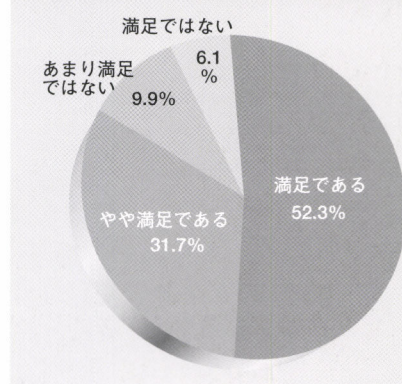


(3) 学部・研究科、専攻分野に対する満足度

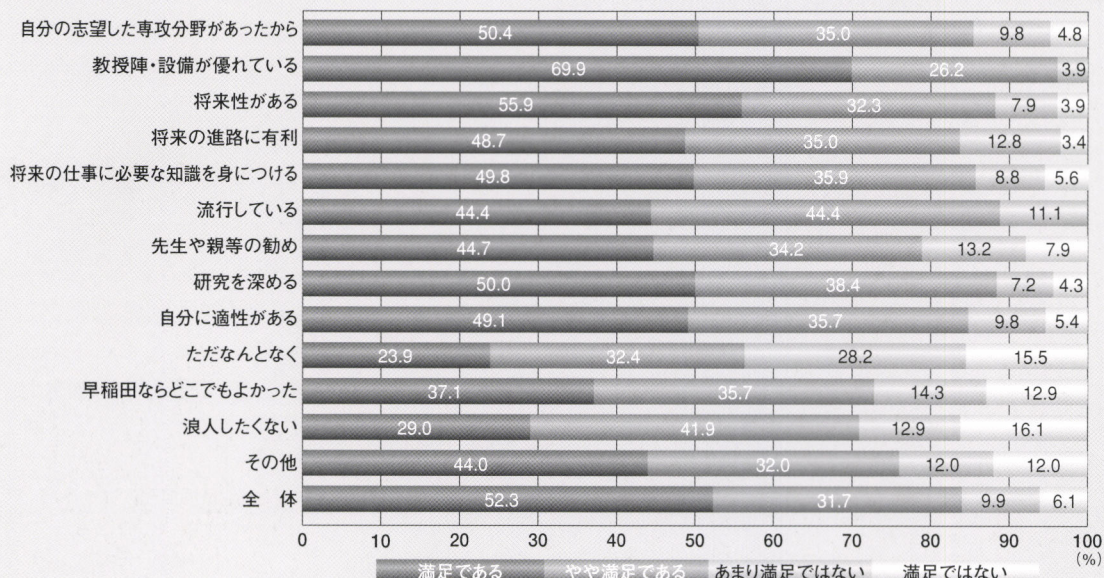
入学時に多くの学生が自分のやりたいことが学べると考えて選択した学部・研究科に対して、現在、満足しているのかについて見てみます。「満足である」(52.3%)、「やや満足である」(31.7%)とポジティブな評価をしているのは全体の84.0%に達しています。

したがって、おおむね満足しながら自分の専門分野を学んでいると考えられますが、これを「学部・研究科、専攻分野を選択した理由」とのクロス集計で分析してみると、「教授陣・設備が優れている」「将来性がある」という選択理由の学生の満足度が相対的に高く、逆に「先生や親等の勧め」「ただなんとなく」「早稲田ならどこでもよかった」「浪人したくない」などという選択理由の学生の満足度は相対的に低くなっています。専攻分野で最先端の勉強・研究ができると考えて入学した学生は満足し、あまり主体的な選択をせずに入学した学生の満足度が低いという結果を示すものと言えるでしょう。

入学した学部・研究科に満足していますか？



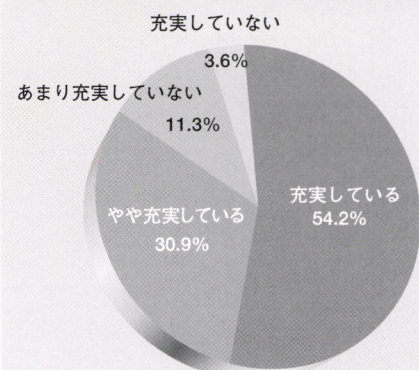
入学した学部・研究科、専攻分野を選んだ理由は何ですか？／入学した学部・研究科に満足していますか？



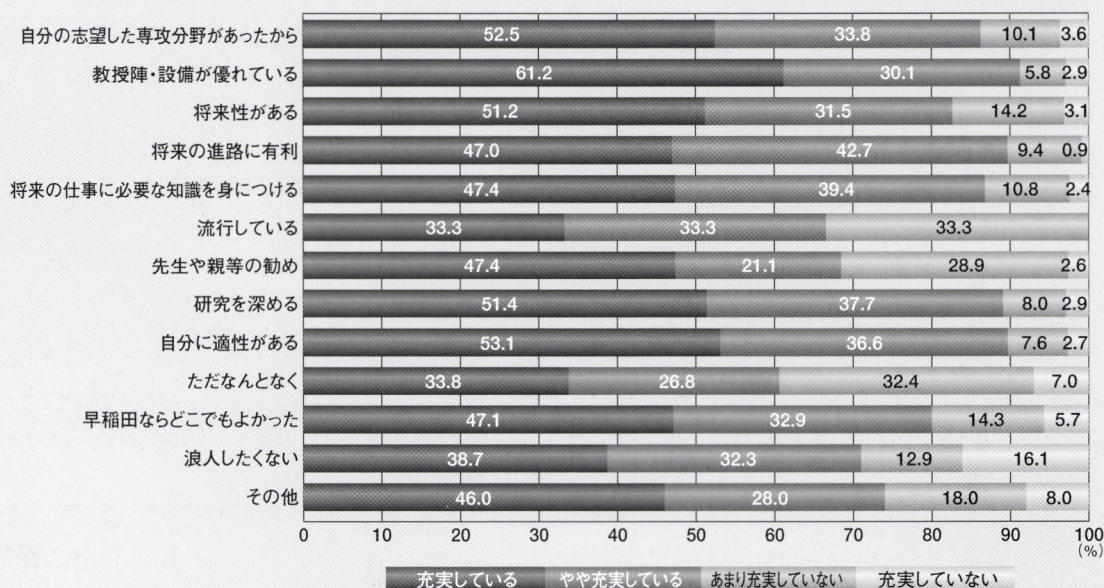
それは「大学生生活の充実度との関係」についても同様のことがうかがえます。「大学生生活の充実度」の単純集計の結果については「充実している」(54.2%)、「やや充実している」(30.9%)と肯定的な回答が85.1%となっています。

したがって、ほとんどの学生が充実感を感じながら学生生活を送っていると考えられますが、「学部・研究科、専攻分野の選択理由」とのクロス集計を行ってみると、大学生生活が充実している学生は学部等の選択理由として「自分の志望分野」、「将来に必要な知識」、「自分の適性」を挙げる人が相対的に多く見られ、逆に充実していない学生は選択理由として「ただなんとなく」「早稲田ならどこでもよかった」と考えている人が相対的に多く見られます。このように入学時のモチベーションがその後の学生生活の充実感をも左右しかねない可能性があると考えられます。

大学生生活は充実していると思いますか？

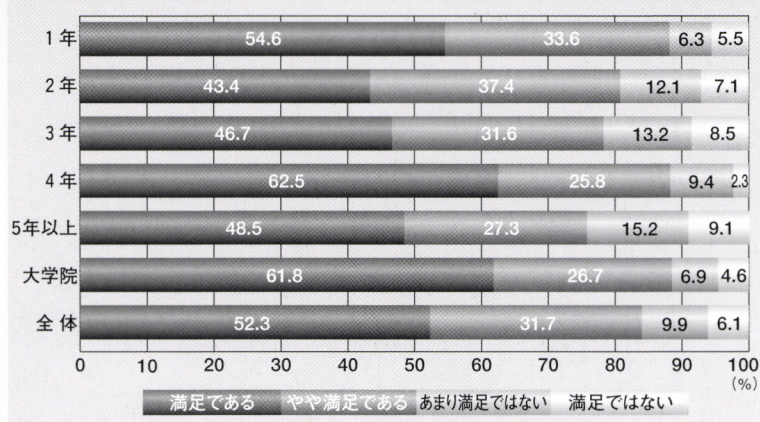


入学した学部・研究科、専攻分野を選んだ理由は何ですか？／大学生生活は充実していると思いますか？(複数回答可)



ところで、入学した学部・学科への満足度は学年が上がるにつれてどのように変わってくるのでしょうか。「満足である」は1年生54.6%、2年生43.4%、3年生46.7%、4年生62.5%と2年生で下がった後、上昇しています。また「満足ではない」については1年生5.5%、2年生7.1%、3年生8.5%、4年生2.3%と3年生までは上昇しますが、4年生で減少しています。これは、入学時に期待していたものがすぐには得られず一時的に満足できなくなるものの、学年が進行するにつれて、授業や課外活動の中で再び満足感を得られるようになっていくという構造を示すものと考えられます。

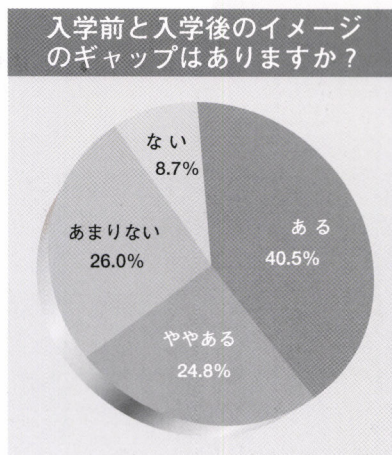
入学した学部・研究科に満足していますか？(学年別)



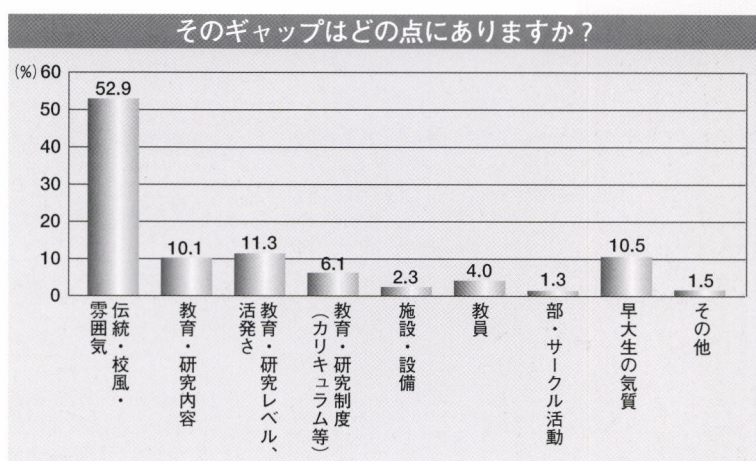
(4) 入学前後の大学に対するイメージギャップ

学生の入学前の早稲田大学に対するイメージと現在のイメージとではギャップがあるのでしょうか。イメージギャップが「ある」(40.5%)、「ややある」(24.8%)、「あまりない」(26.0%)、「ない」(8.7%)となっており、多くの学生が入学後、学生生活を通じてイメージの違いを感じていることが分かります。それは一体何に対してなのでしょう。

それは「伝統・校風・雰囲気」において52.9%と圧倒的に大きな数字となっています。その他は「教育・研究レベル、活発さ」(11.3%)、「早大生の気質」(10.5%)、「教育・研究内容」(10.1%)がそれに続く数値となっています。



早稲田大学に入学した理由のトップが「校風」でしたから、これに関するイメージが違ったことが印象的なものかもしれません。自由回答による大学に対する「満足」、「不満」、「要望」の記述を見ても「自由」「放任」「干渉」「マナー」「思いやり」という言葉が目立ちます。ただし「自由」「放任」「干渉」というキーワードについては「すべき」と

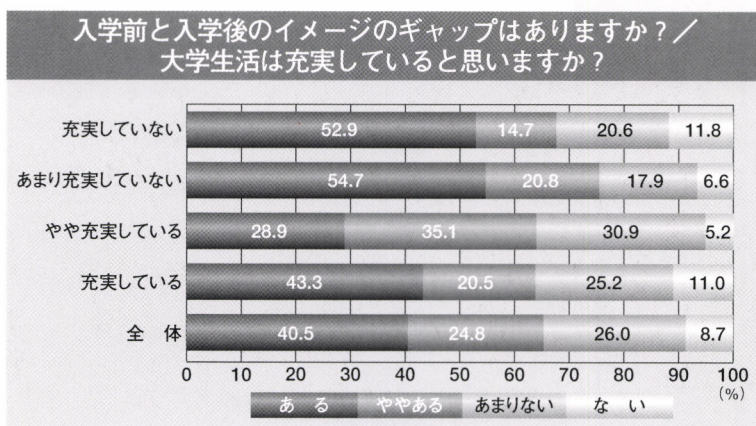


いう意見と「すべきでない」という意見に分かれています。したがってここで見られる「伝統・校風・雰囲気」にギャップがあると感じる学生が多いことについても、それがプラスとマイナスの両方向に存在すると理解することが必要でしょう。

また、「マナー」「思いやり」といったキーワードではどちらも悪い方での記述となっていますので、イメージギャップの「早大生の気質」については、マイナスのギャップと判断することができそうです。

教育・研究の内容やレベルについてのイメージギャップは、上記のグラフの2つの項目を合わせると合計21.4%という少なくない数の学生が回答したことになります。この内容を自由回答の「満足」、「不満」で検証してみると、授業や教員等に関する記述が「満足」で64項目、「不満」で159項目となっており、マイナスギャップの方が多であろうことが推測されます。

ところで、イメージギャップの有無も大学生活の充実度と関係があるのでしょうか。そこでイメージギャップの有無を「大学生活の充実度」別に見てみます。すると、イメージギャップが「ある」という学生の割合は、大学生活が「充実している」(43.3%)、「やや充実している」(28.9%)、「あまり充実していない」(54.7%)、「充実していない」(52.9%)とどちらかというと大学生活が充実していない学生のイメージギャップが相対的に大きいことが分かります。

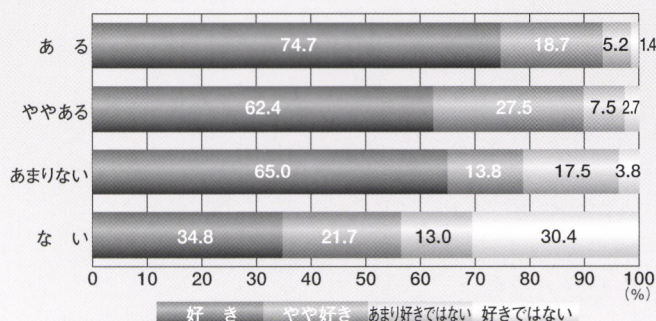


(5) 早稲田大学の学生であることへの満足

学生が自分の大学を総合的に評価する時の1つの指標は「自分の大学が好きであるか」ということでしょう。調査結果は「好き」(69.5%)、「やや好き」(20.7%)と肯定的な意見が90.2%を占めました。

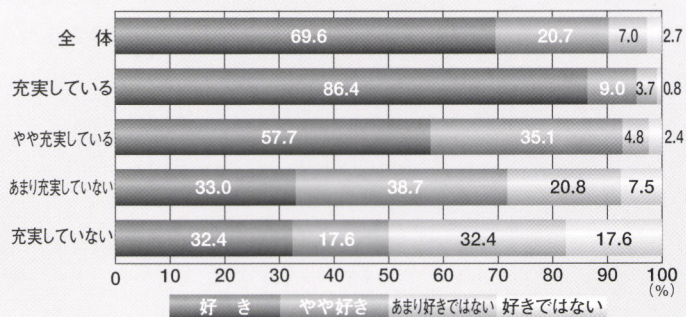
「授業への興味」の有無と「早稲田大学が好き」であるかの関係を、クロス集計の結果を見て調べてみます。早稲田大学を「好き」なのは授業に興味「ある」(74.7%)、「ややある」(62.4%)、「あまりない」(65.0%)、「ない」(34.8%)であり、逆に早稲田大学を「好きではない」のは授業に興味「ある」(1.4%)、「ややある」(2.7%)、「あまりない」(3.8%)、「ない」(30.4%)となっています。このように学生の授業への興味は大学への愛着に直結していると考えられ、大学の授業へのさらなる真剣な取り組みが求められていると言えます。

大学の授業に興味がありますか？／早稲田大学は好きですか？



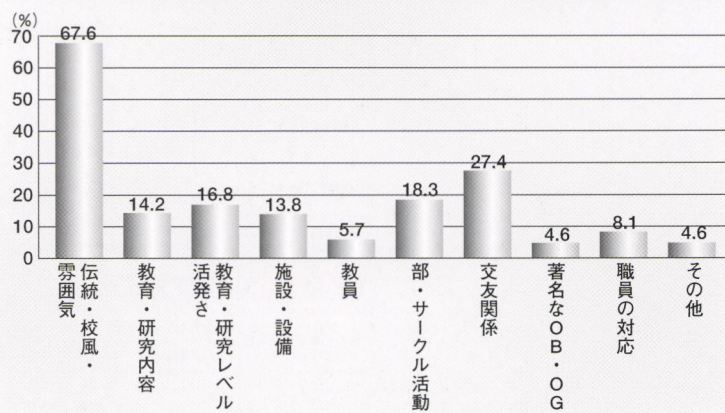
また、これを「大学生活の充実度」との関係で分析してみても、大学生活が充実している学生は早稲田大学が好きであり、以下、充実度が下がるにしたがって、大学への愛着は薄れるようです。

大学生生活は充実していると思いますか？／早稲田大学は好きですか？



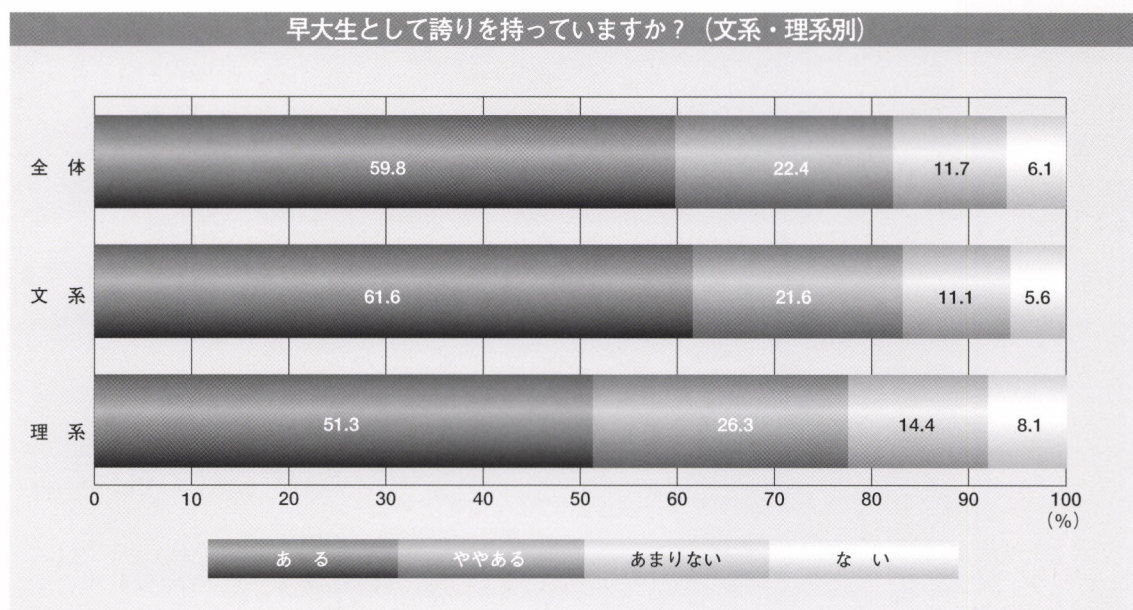
「早稲田大学が好きな理由」については、「早稲田大学を選択した理由」と同じく、「校風・伝統・雰囲気」(67.6%)が群を抜いています。その他では「交友関係」(27.4%)、「サークル活動」(18.3%)、「教育・研究レベル、活発さ」(16.8%)が比較的大きな数値となっています。ところが、「教員」(5.7%)、「職員の対応」(8.1%)と大学のヒューマンリソースに対する評価がなされていないことには注目せざるを得ません。

早稲田大学が好きな理由は？ (複数回答可)

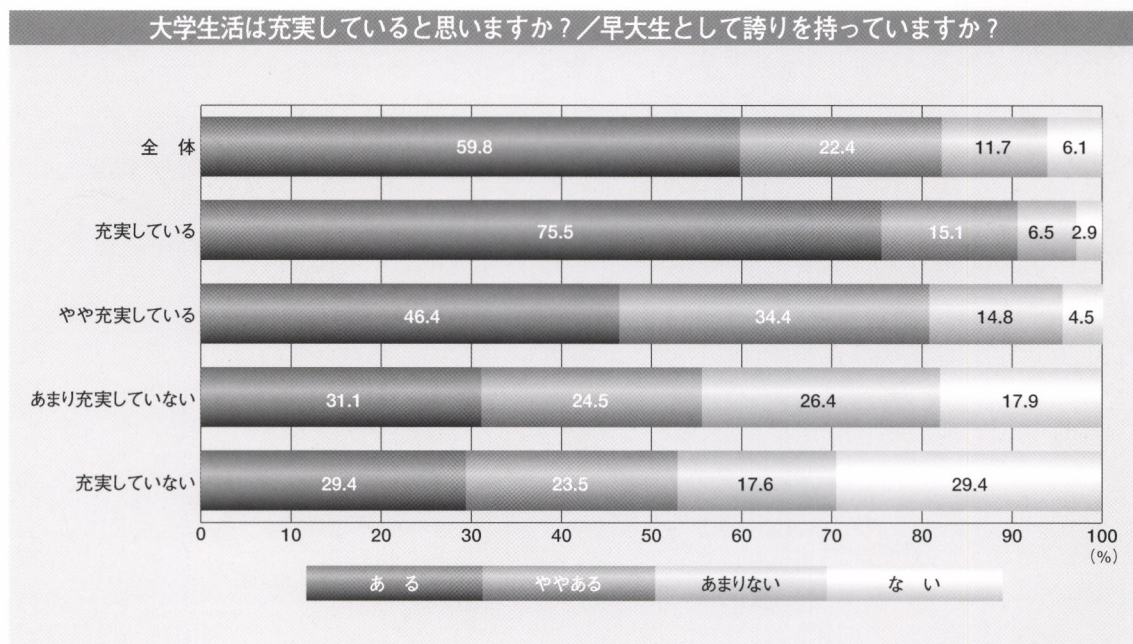


これらを「選択理由」の数値と比べて見ると、「交友関係」「教授陣」はほぼ変わりませんが、「サークル活動」の数値は増え、逆に「教育・研究レベル、活発さ」の数値は減少しています。大学入学後、学生はサークル活動によって期待以上の満足を得るのに対し、教育面では期待以上とはなっていないという状況を示しているのではないのでしょうか。

次に「早大生として誇りを持っているか」ということについて見てみます。誇りが「ある」(59.8%)、「ややある」(22.4%)と肯定的な意見は82.2%で、早稲田大学を「好き」ということに関してよりも8.0%低くなっています。この「誇り」について特に男女間で差は見られませんが、文系と理系とでは文系の方が割合が高いという結果になっています。



また、大学生生活の充実度との関係を見てみると、充実している学生は誇りを持つ割合も高く、そうでない学生は割合が低いという、当然とも言える結果が出ています。



誇りに思う理由についてですが、ここでも「伝統・校風・雰囲気」(66.8%)と大変高い数字を示しています。その他では「早稲田大学のネームバリュー」(26.5%)、「教育・研究レベル、活発さ」(24.3%)が目立つ数字となっています。「誇り」というのは他人から認められるということによっても形成されるわけですが、「早稲田大学のネームバリュー」は、そうした外部からの評価という機能を示しているものとも考えられます。また「教育・研究レベル、活発さ」は自ら体得した部分からの誇りと言えるでしょう。つまり、学生が早稲田大学を誇りに思うのは、多分に情緒的な部分と、社会から認められているといった他律的な部分、そして能力を獲得した自律的な部分といった理由から構成されていると考えられるのではないのでしょうか。

この誇りに思う理由を学年別に見てみると、「伝統・校風・雰囲気」は変化しませんが、「研究・教育レベル、活発さ」は2年生で下がるものの、4年生、そして大学院まで上昇していきます。これは1年生では「誇り」を社会的な評価によって捉えていたものが、実際に教育研究に接するうちに、それが誇りの背景となっていくものと思われます。また、「生涯の友を得た」という誇りの理由も学年が上がるに連れて上昇しており、学生生活の中で着実に人的な財産を増やす学生が多いことを示しています。また、逆に「早稲田大学のネームバリュー」の数値は2年生がピークですが次第に減少していきます。これは他者からの評価で誇りを形成していた学生が、徐々に自分の内面を源泉とする誇りの形成へと成長している過程を示しているものと思われます。

